

2012 年上半期／第 2 四半期 業績発表

2012 年 8 月 30 日

業績は好調—2012 年通期は楽観的見通し

- クラウス・エンゲル取締役会会長 「厳しい業況ながらも順調に推移。」
- 2012 年上半期の業績は好調
 - M&A などといった外的要因を含まない本業の売上高は 69 億ユーロで安定。カーボンブラック事業の投資引上げにより前年比 8 パーセント減
 - 調整後の金利・税金・償却前利益(EBITDA)と調整後の金利税引前利益(EBIT)は、それぞれ 13 億 6,600 万ユーロと 10 億 4,900 万ユーロで好調を維持。
 - 調整後の EBITDA マージンは 19.7%で非常に高く推移。
- 純利益は 5 億 3,300 万ユーロを計上し、前年比微増
- 設備投資が 31%増 - 成長プロジェクトを推進
- 2012 年度の通期見通しを確認—売上は微増、営業成績は 2011 年の高水準と同等、または 2011 年をやや上回る見込み。

内藤 吾朗
日本におけるエボニック グループ
グループ コミュニケーションズ
TEL 03-5323-7391
FAX 03-5323-7399
goro.naito@evonik.com

エボニック インダストリーズ(ドイツ・エッセン)は本日、2012 年第 2 四半期と上半期の業績発表を行いました。クラウス・エンゲル取締役会会長は、「エボニックは好調な業績を維持しています。業況は厳しさを増していますが、弊社は順調に推移しています」と述べています。2011 年 7 月に投資を引き上げたカーボンブラック事業の影響に対する調整後、営業成績は 2011 年上半期の数値にほぼ達しており、売上は前年比微増となりました。「ビジネス環境は競争が激化しリスクが増大していますが、スペシャリティケミカル事業については楽観視しています。しかし、これ以上の景気の低迷は願い下げです」とエンゲル会長。「On Track 2.0 効率向上プログラムの一環として 2012 年春にスタートさせた対策を組織的に実施し、コスト管理と成長目標の達成を目指します」とエンゲルは強調しています。

2012 年上半期の業績

第 2 四半期末にかけて、ヨーロッパを中心に一部のビジネス分野で需要の微減が見られるも、2012 年上半期も好業績を維持しました。

エボニック デグサ ジャパン
株式会社
〒163-0938
東京都新宿区西新宿 2-3-1
新宿モリス 12F

www.evonik.jp

2012年上半期の本源的売上高は安定しており、**グループの売上**は69億3,500万ユーロを計上しました。売上高の2ポイント下落は、売価の上昇(+2ポイント)で相殺されました。その他の影響—主にカーボンブラック事業の連結免除に起因—による10ポイント減少と外貨換算のプラス影響(+2ポイント)を合わせると、総売上は前年比8%減となりました(2011年上半期:75億7,700万ユーロ)。

2012年8月30日

内藤 吾朗
日本におけるエボニック グループ
グループ コミュニケーションズ
TEL 03-5323-7391
FAX 03-5323-7399
goro.naito@evonik.com

調整後EBITDA¹は13億6,600万ユーロを計上。2011年上半期(14億9,700万ユーロ)比9パーセント減の原因は、カーボンブラック事業の収益が売上から除外されたことと、需要の微減です。調整後EBITDAマージンは19.7パーセントを記録し、2011年上半期(19.8パーセント)の高水準を持続しています。一方、調整後EBITは10パーセント下落し、10億4,900万ユーロとなりました(2011年上半期:11億6,400万ユーロ)。

8,100万ユーロに達する**調整**の主な内訳は、太陽光発電産業の競争激化によるエネルギー効率化セグメントでの資産減損です。**継続事業の所得税前収益**は7パーセント減少し、7億9,300万ユーロを計上しました(2011年上半期:8億5,200万ユーロ)。**非継続事業の所得税前収益**は1,400万ユーロで、主に前期までに売却された非中核事業の投資引上げ後収入に起因しています。**純利益**は、前年同期比2パーセント増の5億3,300万ユーロでした(2011年上半期:5億2,500万ユーロ)。営業外の影響に対する調整を行うと、調整後の純利益は6億200万ユーロとなり、2011年上半期(7億6,500万ユーロ)比21パーセント減でした。この数字には、カーボンブラック事業からの相当の収益寄与が含まれています。

継続事業のキャッシュフローは3億8,900万ユーロに達し、前年同期(4億ユーロ)と同程度でした。収益の低下は、正味運転資本の緩やかな成長により基本的に相殺されています。設備投資は、前年同期比31パーセント増の3億9,100万ユーロを計上しました(2011年上半期:2億9,900万ユーロ)。

純負債は、2011年末から4億5,900万ユーロ増加し、13億200万ユーロを計上しました。これは主に高額な設備投資と、2012年4月に支払われた2011年分の4億2,500万ユーロの配当金に起因しています。営業活動のキャッシュフローは相殺効果を有しています。

成長プロジェクトを推進

エボニックは、2012年上半期に主要プロジェクトを推し進めました。中国の上海ではイソホロンとイソホロンジアミンの製造工場の起工式が挙行されました。2014年まで

エボニック デグサ ジャパン
株式会社
〒163-0938
東京都新宿区西新宿 2-3-1
新宿モリス 12F

www.evonik.jp

に、同施設に1億ユーロ超の資本を投下します。イソホロンとイソホロンジアミンは、工業用フローリングと風力タービンに使われる回転翼の羽根の主成分です。さらに中国の吉林省では、過酸化水素工場に礎石を据え付けました。この生産施設に対する総投資額も、1億ユーロを上回る見込みです。同施設の完成は2013年末から2014年初めに予定されています。8月初旬には、シンガポールの新しいメチオニン複合施設の着工を記念し、象徴的な鉄入れ式を執り行いました。成長するアジア市場でエボニック初となる世界規模の飼料添加物生産施設は、建設費5億ユーロ以上を要し、スペシャリティケミカルとしては過去最大の単独投資となります。南米と東欧では、飼料添加物 Biolys®の生物工学的生産に向けた新しい施設の建設を計画しています。また、ミネソタ州ブレアでは、2012年末までに施設拡張工事が完了する見込みです。Biolys®に対する総投資額は、3億5,000万ユーロ前後になる見通しです。さらにエボニックは、急速に拡大する中東市場向けに高吸収性樹脂の生産とマーケティングを行う合弁事業を設立しました。

2012年8月30日

内藤 吾朗
日本におけるエボニックグループ
グループ コミュニケーションズ
TEL 03-5323-7391
FAX 03-5323-7399
goro.naito@evonik.com

2012年第2四半期も好調を持続

グループの売上は、2012年第2四半期に9パーセント減少し、34億7,900万ユーロを計上しました(2011年第2四半期:38億2,100万ユーロ)。主な要因は、2011年7月に投資引上げたカーボンブラック事業の連結免除です。本源的売上高は前年同期比ほぼ変わらず、売上高は微減(-1パーセント)するも、売価は安定しています。グループの調整後 EBITDA は、6億7,400万ユーロでした。前年同期(7億2,600万ユーロ)比7パーセント減は、連結されていないカーボンブラック事業の収益寄与に主に起因しています。調整後 EBITDA マージンは、19.4%と非常に高レベルで推移しています。一方、調整後 EBIT は、8パーセント減の5億1,600万ユーロとなりました(2011年第2四半期:5億6,000万ユーロ)。純利益は、前年同期から大幅にアップし、2億6,400万ユーロを計上しました(2011年第2四半期:9,400万ユーロ)。ただし、前年の数字は、投資引上げによる1回限りの高額回収の影響を受けています。これらの営業外の影響に対する調整を行うと、**純利益**は2億7,000万ユーロから1億3,100万ユーロに縮小しました。

2012年上半期の各区分の業績

コンシューマー、ヘルス&ニュートリション

コンシューマー、ヘルス&ニュートリションセグメントは、主に消費財、動物栄養、医薬品セクター用途のスペシャリティケミカルを生産しています。この区分は、コンシューマースペシャリティ事業ユニットとヘルス&ニュートリション事業ユニットで構成されています。

エボニック デグサ ジャパン
株式会社
〒163-0938
東京都新宿区西新宿 2-3-1
新宿モリス 12F

www.evonik.jp

売上は、生産高と売価の微増、外貨換算のプラス影響に後押しされ、前年同期比 6 パーセント増の 20 億 8,600 万ユーロを計上しました(2011 年上半期:19 億 7,700 万ユーロ)。営業成績は、2011 年上半期に記録した高水準をやや上回りました。調整後 EBITDA は、1 パーセント増の 5 億 4,300 万ユーロ(2011 年上半期:5 億 3,600 万ユーロ)、調整後 EBIT は、2 パーセント増の 4 億 8,100 万ユーロ(2011 年上半期:4 億 7,300 万ユーロ)となりました。調整後 EBITDA マージンは 26.0 パーセントで、非常に高い水準を維持しています(2011 年上半期:27.1 パーセント)。

2012 年 8 月 30 日

内藤 吾朗
日本におけるエボニック グループ
グループ コミュニケーションズ
TEL 03-5323-7391
FAX 03-5323-7399
goro.naito@evonik.com

リソース効率化

リソース効率化セグメントは、環境にやさしいエネルギー効率の高い製品向けのソリューションを提供しています。インオーガニックマテリアル ビジネスユニットとコーティング & アディティブ ビジネスユニットから構成されています。

売上は、前年同期比 31 パーセント減の 16 億 5,100 万ユーロ(2011 年上半期:23 億 7,600 万ユーロ)でした。主な要因は、カーボンブラック事業の投資引上げです。カーボンブラック事業を除外すると、売上は生産高の減少に起因して 2 パーセント減となりました。2012 年上半期の営業成績は、カーボンブラック事業の収益の連結免除と需要の下落により減少しました。総体的にみると、調整後 EBITDA は、27%減の 3 億 4,000 万ユーロ(2011 年上半期:4 億 6,700 万ユーロ)、調整後 EBIT は、32 パーセント減の 2 億 6,600 万ユーロ(2011 年上半期:3 億 9,100 万ユーロ)となりました。調整後 EBITDA マージンは 20.6 パーセントで、2011 年上半期の 19.7 パーセントから上昇しました。特記すべき点として、前年は連結されていたカーボンブラック事業の調整後 EBITDA マージンは、平均を下回っています。

スペシャリティマテリアル

スペシャリティマテリアルセグメントは、ポリマー材料とその半製品、添加剤の生産が中核を占めています。この区分は、パフォーマンスポリマー ビジネスユニットとアドバンスト・インターメディアイト ビジネスユニットから構成されています。

売上は前年同期を若干上回り、25 億 300 万ユーロ(2011 年上半期:24 億 9,300 万ユーロ)でした。売価の上昇と外貨換算のプラス影響のおかげで、需要減とドイツ・マールの CDT 工場の火災に起因する生産不足による生産量減が相殺されました。営業成績をみると、火災による収益減は保険金支払いにより基本的に埋め合わされます。ヨーロッパを中心とする需要の低迷により、営業成績は前年の非常に高い水準を下回りました。調整後 EBITDA は、5 パーセント減の 4 億 5,200 万ユーロ(2011

**エボニック デグサ ジャパン
株式会社**
〒163-0938
東京都新宿区西新宿 2-3-1
新宿モリス 12F

www.evonik.jp

年上半期:4億7,700万ユーロ)、調整後 EBIT は、6 パーセント減の 3 億 7,500 万ユーロ(2011 年上半期:3 億 9,700 万ユーロ)となりました。その結果、調整後 EBITDA マージンは、2011 年上半期の 19.1 パーセントから 2012 年上半期は 18.1 パーセントに下落しました。

2012 年 8 月 30 日

内藤 吾朗
日本におけるエボニック グループ
グループ コミュニケーションズ
TEL 03-5323-7391
FAX 03-5323-7399
goro.naito@evonik.com

サービス

サービス区分は、主にスペシャリティケミカル区分およびコーポレートセンターにセントラルサービスを提供しています。基本的にケミカル事業の内販を担当していますが、わずかながら第三者にもサービスを提供しています。

2012 年上半期のサービス区分の総売上は、13 億 5,800 万ユーロでした。そのうち 8 億 5,700 万ユーロは内販が占めています。外販は 6 パーセント増加して 5 億 100 万ユーロを計上しました。調整後 EBITDA は 11 パーセント増の 9,700 万ユーロ、調整後 EBIT は 15 パーセント増の 5,400 万ユーロでした。

不動産

エボニックが中期的に完全に手放すことを計画している不動産区分は、主にドイツのノルトライン・ウェストファーレン連邦州で一般世帯に住宅を賃貸しています。

エボニックの住宅用不動産ポートフォリオに加え、この事業区分は独 THS 社の株式 50 パーセントを所有しています。2012 年 1 月 1 日、エボニックと THS 社は互いの保有財産の運営管理を Vivawest Wohnen 合併会社に統括する取り決めを交わしました。その結果、これまで不動産区分が報告していた売上の一部が連結されなくなりました。2012 年初頭から、これらの売上は、自己資本として認められた Vivawest Wohnen 合併会社に計上されるようになり、不動産区分の売上に含められなくなりました。営業成績に大きな影響は見られません。

このため、2012 年上半期の売上は、前年同期比約 50 パーセント減の 1 億ユーロとなりました(2011 年上半期:1 億 9,800 万ユーロ)。営業成績は、THS 社の自己資本利益における繰延税金資産の再評価による 2,000 万ユーロの 1 回限りの影響が含められた前年を下回りました。その結果、調整後 EBITDA は 23 パーセント減の 8,700 万ユーロ(2011 年上半期:1 億 1,300 万ユーロ)、調整後 EBIT は 28 パーセント減の 6,400 万ユーロとなりました。

エボニック デグサ ジャパン
株式会社
〒163-0938
東京都新宿区西新宿 2-3-1
新宿モリス 12F

www.evonik.jp

2012 年通期業績の見通し

2012 年 8 月 30 日

2012 年の通期見通しを評価するにあたり、2011 年 7 月末に投資引き上げするまで、エボニックの 2011 年の決算報告書にカーボンブラック事業が含まれていたことを特記しなければなりません。比較可能性を高めるため、エボニックの通期見通しは、カーボンブラック事業を除いた数字に基づいています。

内藤 吾朗
日本におけるエボニック グループ
グループ コミュニケーションズ
TEL 03-5323-7391
FAX 03-5323-7399
goro.naito@evonik.com

政情不安と全般的な経済不安が増大しています。エボニックは、欧州ソブリン危機の関連リスクは拡大すると予測しています。ヨーロッパでは、すでに需要減退の最初の兆候が表れています。また、ヨーロッパと一部の新興市場では、成長見通しが衰退しています。

このような業況にも関わらず、エボニックはスペシャリティケミカル事業の見通しを楽観視しています。業況の厳しさが増すことを視野に入れ、エボニックグループは On Track 2.0 効率向上プログラムの下でスタートした対策を組織的に実施しつづけます。通期的にみると、エボニックの 2012 年度の売上は微増する見通しです。営業成績は 2011 年の高水準と同程度、または 2011 年をやや上回ると予測しています。

¹ 同業者が使用している用語に合わせ、2012 年初頭より営業外収入、EBITDA(営業外収入前)、EBIT(営業外収入前)は、各項目の構成は変えずに調整、調整後EBITDA、調整後EBITに変更しました。さらに、調整後純収入等、これ以外の調整指標も算出しています。

エボニックグループの損益計算書(概要)

(単位 100 万ユーロ)	2012 年 第 2 四半期	2011 年 第 2 四半期	変動 (%)	2012 年 上期	2011 年 上期	変動 (%)
売上	3,479	3,821	-9	6,935	7,577	-8
金利・税金・償却前利益(調整後 EBITDA)	674	726	-7	1,366	1,497	-9
金利税引前利益(調整後 EBIT)	516	560	-8	1,049	1,164	-10
調整	-17	-199		-81	-121	
金融収支	-86	-97		-175	-191	
= 所得税前収益(継続事業)	413	264	56	793	852	-7
所得税前収益(非継続事業)	13	-80		14	-46	
= 所得税前収益(合計)	426	184	131	807	806	0
所得税	-168	-85		-283	-265	
= 税引後所得	258	99	163	533	525	2
被支配株主持分	6	-5		9	-16	
= 純利益	264	94	184	533	525	2
調整後純利益	270	401	-33	602	765	-21

エボニック デグサ ジャパン
株式会社
〒163-0938
東京都新宿区西新宿 2-3-1
新宿モリス 12F

www.evonik.jp

2012年8月30日

内藤 吾朗
日本におけるエボニック グループ
グループ コミュニケーションズ
TEL 03-5323-7391
FAX 03-5323-7399
goro.naito@evonik.com

事業分野別の業績

	売上			調整後 EBITDA		
	2012年 Q2 (100万€)	2011年 Q2 (100万€)	変動 (%)	2012年 Q2 (100万€)	2011年 Q2 (100万€)	変動 (%)
コンシューマー、ヘルス &ニュートリション	1,031	1,000	3	257	254	1
エネルギー効率化	833	1,199	-31	174	235	-26
スペシャルティ マテリアルズ	1,269	1,237	3	239	220	9
サービス	245	249	-1	46	70	-35
不動産	51	105	-52	46	70	-35
その他	50	31	55	-88	-91	
グループ全体	3,479	3,821	-9	674	726	-7

	売上			EBITDA		
	2012年上期 (100万€)	2011年上期 (100万€)	変動 (%)	2012年上期 (100万€)	2011年上期 (100万€)	変動 (%)
コンシューマー、ヘルス &ニュートリション	2,086	1,977	6	543	536	1
エネルギー効率化	1,651	2,376	-31	340	467	-27
スペシャルティ マテリアルズ	2,503	2,493	0	452	477	-5
サービス	501	475	6	97	88	11
不動産	100	198	-50	87	113	-23
その他	94	58	59	-153	-184	
グループ全体	6,935	7,577	-8	1,366	1,497	-9

エボニックグループの事業別の社員数

	2012年6月30日	2011年6月30日
コンシューマー、ヘルス&ニュートリション	6,698	6,384
エネルギー効率化	5,744	6,381
スペシャルティマテリアルズ	6,686	6,846
サービス	11,516	10,946
不動産	601	1,135
他のオペレーション	2,004	1,864
グループ全体	33,249	33,556

エボニック デグサ ジャパン
株式会社
〒163-0938
東京都新宿区西新宿 2-3-1
新宿モリス 12F

www.evonik.jp

以上 2012年8月30日

エボニック インダストリーズについて

ドイツのクリエイティブな産業グループであるエボニックは、スペシャルティケミカルの世界的リーダーです。私たちの活動はヘルス・ニュートリション、エネルギー効率化、グローバリゼーションといった世界のメガトレンドに集中しており、企業の有益な成長と企業価値の増大は私たちが目指す戦略の大事な根幹となります。エボニックは革新的なプロセスと統合的な技術プラットフォームを強みとしています。

エボニック インダストリーズは世界100ヶ国以上で活動しており、2011年度は33,000人以上の社員を有し、総売上高は145億ユーロ、EBITDA(金利・税金・償却前利益)は28億ユーロを計上しました。

免責事項

このプレスリリースに記載されている見通しや期待、または将来の予測に関する記述は、既知または未知のリスクと不確実性を含む可能性があります。実際の結果や発展は事業環境の変化により異なる場合があります。エボニック インダストリーズ AGはこのリリースに含まれる見通し、期待、記述に関して、更新の義務を負いません。

(このプレスリリースは2012年8月8日にドイツで発表されたものの翻訳版です)

内藤 吾朗
日本におけるエボニック グループ
グループ コミュニケーションズ
TEL 03-5323-7391
FAX 03-5323-7399
goro.naito@evonik.com

エボニック デグサ ジャパン
株式会社
〒163-0938
東京都新宿区西新宿 2-3-1
新宿モノリス 12F

www.evonik.jp